

東京中央農業協同組合 子ども食堂 事例報告

東京中央農業協同組合 組織広報室 室長



前田 誠也

東京中央農業協同組合（以下、JA東京中央）

の前田と申します。組織広報室という部署に所属しております。組織に当たる部分としては、青壮年部・女性部の事務局や組合員大学、昨年度全国で行った全組合員訪問活動など、組合員組織に関すること。それに加えて広報誌の発行などを行っています。

また、本日ご報告いたします、支店拠点活動・地区拠点活動等に対する支店への支援等も行っ

ています。

本日は、JA東京中央の子ども食堂支援について、事例報告をさせていただきます。

1. 東京中央農業協同組合の概要

JA東京中央は、東京23区の南西部を定款上の管内としております。JAですので、農業者を中心とし、地域の方々に組合員となっていただいている協同組合です。地域の特徴としては

体験時の指導等も行っています（写真1）。

宅地化が進み、農地・農業者が減少傾向にあることが挙げられます。

正組合員は、大田区・世田谷区・杉並区・中野区に限られており、正組合員と准組合員の割合は、14・86という比率となっています。

このような環境の中、都市型JAということもあり、金融共済事業の比率が高くなっておりますが、都市農業の担い手づくりを軸とした地域農業振興と安全・安心な農作物の提供を目指し、ファーマーズマーケット二子玉川・ファーマーズマーケット千歳烏山・ファーマーズマーケット荻窪を設置しております。都市農業にできることとして、学校給食への地場産野菜の納入、農作業体験等も行っています。

世田谷区じだうぼりの次太夫堀公園にあります教育田では、近隣の小学生や幼稚園児などが田植えや稲刈りの体験に参加しています。きぬた砧地区青壮年部が区から委託を受けて、田んぼの管理を行い、

（写真1）世田谷区次太夫堀公園 教育田



先ほど東京23区南西部とお伝えいたしました
が、地図の網掛部分が定款上の管轄となります。
農地や正組合員さんは、この中の大田区・世田
谷区・杉並区・中野区に存在します。斜線部分
は、J A世田谷目黒という別のJ Aの管内です。
J A世田谷目黒管内を含めた網掛・斜線の範囲
内で、人口は約350万人、世帯としては
200万弱ぐらいがお住まいになっています。
その中で、正組合員さんは、人口に対して約1、
400人に一人ぐらいの割合と少数派になりま
す。住宅と農地が隣接し、残渣を燃やせば消防
車が来る、農薬をまけば苦情になるなど、農業
を続けることにに対して非常に難しい周囲環境と
なっており、都市農業に対するさらなる住民理
解が必要となっています。

そのような環境にある当J Aですが、令和元
年度末には正組合員1, 915名 准組合員
1万1, 000人超となっております。金融等

店舗は14店舗、ファーマーズマーケット3店舗、
経済店舗2店舗を設置しております。また、子
会社として株式会社J A東京中央セレモ
ニーセンターが、葬祭事業や健康維持のパワー
リハビリ等の事業を行っており、地域貢献活動
にも取り組んでいます。

決算の概要については、(表1)のとおりです。
特徴的な都市型J Aの構造となっており、信用
共済に関する収益が大きいこと、宅地等供給事
業にて収益を上げています。

J A東京中央の経営理念は、「J A東京中央
は、「農」をもとに組合員・地域のみなさまと
ふれあいを深め、地域社会への貢献を目指しま
す。」です。基本方針は、3つの項目があり、「未
来へつづく都市農業の維持・発展」「J Aの特
性を活かした地域貢献」「信頼されるJ A経営
の確立」を掲げております。

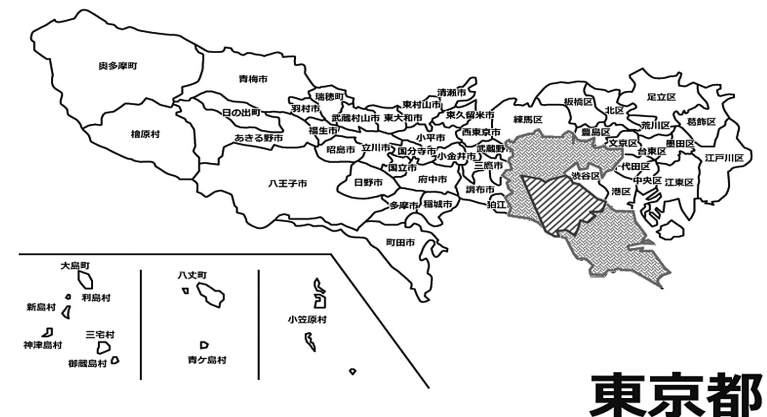
写真2は、明治神宮大嘗祭当日祭に当J Aか

(表1) 令和元年度決算概要
(単位：百万円)

< 項目 >	< 金額 >
信用事業総利益	3, 475
共済事業総利益	786
購買事業総利益	31
販売事業総利益	28
宅地等供給事業総利益	632
指導事業収支差額	△46
事業総利益	4, 908
事業管理費	3, 776
税引前当期利益	1, 286

(出典) 報告者作成

(地図) J A東京中央・J A世田谷目黒管内

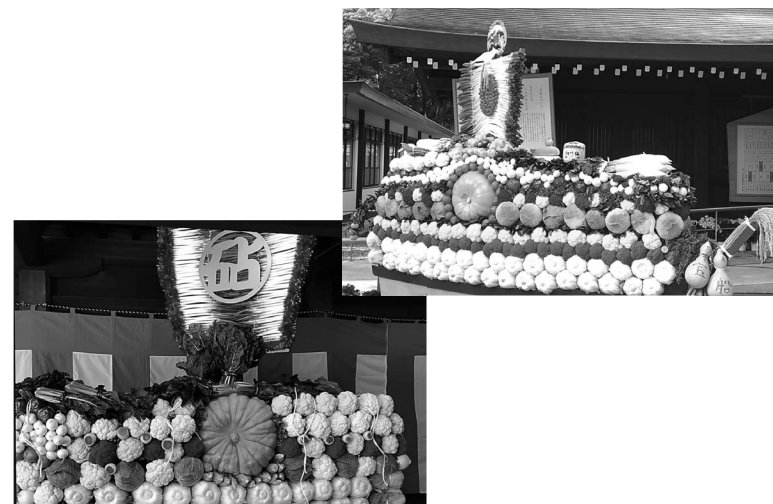


より実施している内容が異なります。その中から一部を紹介させていただきます。

子ども食堂支援への当ＪＡ全体的な取組ですが、令和２年度は（表２）に記載された30か所の子ども食堂へ地場野菜を中心とした食材の提供を行う予定でした。「予定でした」というのは、コロナウイルス感染拡大防止のため食堂自体が休止となつているところがあるためです。また、表２に記載はありませんが、夏や秋に追加となった食堂もあります。これらの食堂への支援は、正組合員の育てた農産物をＪＡで買い取り、子ども食堂へ提供させていただいているところが大半です。

また、地域を見ると、保育園の待機児童が多いことでニュースになったところでもあります。人口・世帯数が多く、共働きの方も多いことの裏返しだと思います。そのため、子どもさんが一人で食事をとる「孤食」の環境も多いのでは

（写真２）明治神宮 大嘗祭当日祭 奉献宝船



（表２）＜地区を拠点とした活動について＞
令和２年度子ども食堂を通じた社会貢献（休止中含む）

行政区	対応支店	提供先等
大田区	田園調布支店	「ラーメン子ども食堂」「いちご食堂」 「横町子ども食堂 みんなでご飯」
	馬込支店	「子ども食堂 れんげの会」
世田谷区	烏山支店	「ぞんみょうじ 子ども食堂」
	芦花支店	「子ども食堂 からすやま」「芦花めし」
	砧支店	「じどうかん食堂（喜多見児童館）」
	鎌田支店	「子ども食堂 宇奈根プレイス」「たまがわ子ども食堂」
杉並区	城西支店	「バードパス子ども食堂」「ハッピー食堂」 「LIBERTA」「わくわくあさきた食堂」
	高井戸支店	「西荻・寺子屋食堂」「ころころ食堂」「エルガーハウス」
	井荻支店	「ゆうゆう見守り隊 ふれあい食堂」「桃井みんなde食堂」 「中高生タイムスペシャル（善福寺児童館）」
	杉並中野支店	「高円寺わくわく食堂」「おばちゃん家」 「にんじんキッズカフェ・阿佐ヶ谷」「阿佐ヶ谷ガヤガヤ食堂」

（出典）報告者作成

ら奉納いたしました農産物の宝船です。多くの来場者の方に見ていただき、都市農業のPRとともに、都市でも農産物が取れることを知っていただくきっかけになればと思っております。

2. 地区を拠点とした活動について

当ＪＡの基本理念・基本方針は、地区を拠点とした活動の基になっております。

基本理念に掲げた農をもとにした地域貢献、基本方針に掲げたＪＡの特性を活かした地域貢献および都市農業維持発展のための地域理解の醸成を目指していますが、その取組みの一つとして、地区拠点活動を各支店で実施しております。毎年、予算の範囲内で工夫しながら、本日の主題である子ども食堂への支援や、収穫体験・農産物PR等を行っております。

当ＪＡの子ども食堂への取組みも、模索しながら取り組んでいる状況であり、地域や支店に

(写真3) 砧地区子ども食堂クリスマスケーキ作り



ないかと考えられたことから、孤食対応を目的として、子ども食堂への支援を行っています。その子ども食堂さんからコロナ禍により食堂を開催できないが、食材の提供による支援を行いたいとの申し出を受けて、食堂を通じて食材提供を行ったという取組みもあります。

取組みの異なる食堂をいくつか紹介いたしますが、芦花^{ろか}支店の「こども食堂からすやま」への支援は、組合員さんが主体となって子どもさん向けの収穫体験も実施し収穫した野菜を食堂へ提供しています。そのお手伝いに職員が参加させていただいております。

3. 砧地区子ども食堂 クリスマスケーキ作り

地場農産物の提供だけでなく、その先に一歩進めた取組みの事例として、砧地区子ども食堂クリスマスケーキ作りを紹介いたします。こちら

らは、世田谷区立喜多見児童館の「じどうかん食堂」にて実施した、食料提供による孤食対応だけでなく、子どもたちと一緒に調理をするといった取組みになります(写真3)。

これまでも地場産野菜をお届けする支援活動をしていましたが、女性部員の一人が子ども食堂でお手伝いをしていたことから、女性部部长と一緒に何か子どもたちと関われるイベントを開催しませんかと誘いし、J A 東京中央砧支店・砧地区女性部・児童館側とで協議しクリスマスケーキと一緒に作る企画を立案しました。

参加者の募集受付等は児童館で行いましたが、人気があり申込で列が出来たそうです。

初めは、説明を聞いたりしていた子どもたちも、実際の作業で手を出し始め、最後には打ち解けた様子で、楽しんでいたようでした。平日の午後に開催したため、職員の参加は人数とはいきませんでした。女性部の方は比較的

参加しやすかったようで、子どもさんたちとの交流が楽しそうでした。

4. 大田地区こども食堂フェス

次は、大田区の田園調布支店が開催しましたこども食堂フェスの紹介です。

田園調布支店は、地場野菜の提供による子ども食堂支援を行ってきましたが、さらなる取組みを模索していました。大田区福祉協議会と相談し、三か所の子ども食堂に声掛けをし、店舗のホールにてフェスとして共同開催しました。

当初、支店としては孤食への対応や大田区の農業のPRになるのではないかと考え、取組みを始めたということでした。

そして従来の地場野菜の提供に加え、会場の提供、そして子どもも大人も楽しめる空間づくりのために事前の打ち合わせや会場の装飾を行い、紙芝居、アフリカ音楽の演奏、餃子づくり

体験等のイベントを準備しました。

こども食堂フェス終了後、運営サイドの方からは、「活動継続の力になります。」など、お礼の言葉をいただきました。子ども食堂さんからは、地域の人とつながれてよかった、企画段階から一緒に取り組みをしたこともあり、今後ともJAと一緒に地域にかかわる催しをしていきたいという言葉いただきました。

また、地域の生産部の部長さんからは、野菜のおいしさを、地域の人に知ってもらう機会になったとお話をいただき、組合員の想いとJAの活動が一致した取り組みだったのではないかと思います。また、支店長は地域の方になつたのではないか。参加した皆さんの笑顔が、今後の地域貢献活動のエネルギーになりますと言っていました。複数の子ども食堂さんが集まり、子ども食堂間の交流ができたこと、

く、JA東京中央城西地区女性部が自ら取り組んで開催しているものです。城西地区は、杉並区を中心とし、中野区も含む地域になります。

話は子ども食堂開催の検討よりも前になりますが、地区女性部役員会において「女性部員と職員との交流の機会が少ないのではないか」との意見が出たそうです。自分たちの活動を担当以外の職員にも広く知ってもらいたいとの思いから、何か取り組んでみようとなったそうです。女性部の得意分野を考えた時に「料理」というキーワードがあがり、地区内の職員に手作りお弁当の差し入れを行いました。女性部では、お弁当がコミュニケーションツールとして役立ち、やりがいを感じることが出来たそうです。

その後、実施しているミニデイサービスでお弁当の提供を行ったかどうか、などの意見もあったそうですが、「JAでは、地場産野菜を杉並区内の子ども食堂へ提供する活動を行って

また、各子ども食堂の活性化につなげることができた取組みだったのではないかと考えています。

こども食堂フェスの様子は、『家の光』^(※1)2019年4月号に記事が掲載されています。

今まで、いくつかの事例を紹介させていただきましたが、地域ごとに取組みが異なっています。孤食対応としての地場産農産物の提供を行っているのが大半です。そのうえで食農教育として収穫体験・農業体験の提供をしているところもあれば、子どもさんと一緒に調理を体験しているところもあります。また、こども食堂フェスのように交流を図るところもあります。

(※1)「JA発元気な地域づくり」

東京都大田区JA東京中央田調布支店

みんな集まれ！JAの支店がこども食堂に」

『家の光（東日本版）』2019. 4. 179-181ページ

5. 城西地区女性部 JAまごころ食堂

JAまごころ食堂は、今までの支援型ではな

いるので、今度は提供だけでなく自分たちが料理を作るのはどうだろう」との意見があがり、子ども食堂開催に向けて動き始めました。

そのような地区女性部役員会での話し合いから、地区女性部の活動として自主的に取り組むことになりました。職員はお手伝いとして参加させていただきました。資金も参加者の方に一部負担していただき、地区女性部で開催したバザーの売上金でまかっています。

子ども食堂開催にあたり検討した際には、目的としてこのような意見が上がりました。

「JAを通じた地域コミュニケーションづくり」ができたらいね、農業・野菜を好きになってもらいたい、杉並にも農地があること知ってもらいたい、子どもたちの居場所づくり、などが上がったそうです。検討の結果、「地域の子どものから独り暮らしのお年寄りまでが同じテーブル

(写真4) JAまごころ食堂



を囲んで賑やかにご飯を食べ、地産地消を知る食育の場所にしよう」と決まりました。名前は、みなさんの中心で人と人を結びつける役割を果たしたいという気持ちをこめて「JAまごころ食堂」といたしました。」私どもの発行している広報誌が正組合員向け、准組合員向け、地域向けの三誌ございますが、その名称が「まごころ」^(※2)となっております。広報部署としても誠にありがたいことでした。

(※2) JA東京中央では広報誌(季刊)として、「まごころ」(正組合員向け)、「まごころ+」(准組合員向け)、「まごころ+C」(地域向け)を発行している。
JA東京中央ウェブサイト
<https://www.ja-tokyocho.or.jp/about/magazine/>

JAまごころ食堂の対象者としては目的にあった多世代交流を受けて、子ども・保護者・高齢者が対象となっております。1回目の開催については、近所の学童クラブに声を掛け、子どものみを対象として開催しました。2回目以

降は、チラシやホームページにて申込を受付し、対象範囲を広げました。

当日は、夕食の提供だけでなく、ゲーム等を行った後に食事という形式をとりました。6月末に開催した際には、短冊に願い事を書き七夕の飾り付けを行ったり、七夕様の歌に振りを付けながら一緒に歌ったりしました。子どもたちへ季節の行事を伝えていく場としても活用していました。その後の開催では、野菜の切り口や苗・花の写真をみせて野菜を当てる野菜クイズ等を取り入れ、野菜へ関心をもってもらう活動も実施しています。女性部の資料には、先ほどの目標を達成するために、「献立の説明や活動の趣旨を説明し、ただの『食堂にしない』などの記載があります。

6. 最後に

(表3) は平成30年度の支援先になります。

14か所の子ども食堂が記載されていますが、先ほどの令和2年度の半数ぐらいです。この2年間で、支援先は倍以上になっています。予算や人的資源等の問題から、全ての支援先に応えることができていないのが現状です。

また、支援の際には、こども食堂フェスにも出てきましたが、区の社会福祉協議会なども支援や相談窓口をしていることがあり、場合によって相談しながら進めている状況です。区によっては「子ども食堂マップ」を作成しています。取組みを始める際には、行政にも一度相談してみてください。

いくつかの事例を報告いたしましたが、孤食への対応として取組みを模索しながら進めております。ほかに食農教育の場所としてや伝統を伝える場として活用したりもしております。

また、居場所づくりという点で、本日のテーマと異なりますが、シニア食堂への支援を始め

(表3) <地区を拠点とした活動について>
平成30年度子ども食堂を通じた社会貢献

行政区	対応支店	提供先等
大田区	田園調布支店 子ども食堂フェス開催	ラーメン子ども食堂 嶺町子ども食堂 みんなでご飯 いちご食堂
世田谷区	烏山支店	ぞんみょうじ 子ども食堂
	芦花支店	子ども食堂 からすやま
	砧支店	じどうかん食堂 (喜多見児童館)
	鎌田支店	子ども食堂 宇奈根プレイス
杉並区	城西支店	ハードバス子ども食堂 ハッピー食堂
	高井戸支店	西荻・寺子屋食堂 風神亭 まんぶく子ども食堂
	井荻支店	ゆうゆう見守り隊 ふれあい食堂 中高生タイムスペシャル(善福寺児童館)
	杉並中野支店	高円寺わくわく食堂

(出典) 報告者作成

ている支店もあります。今年については、コロナ禍で高齢者の集まりが難しくなかな開催できないところですが、先のまごころ食堂のように、子ども・高齢者に参加していただき、多世代交流を図っているところもあります。

課題としては予算や人的資源を理由に、食堂さんからの申し出に全て応えることができていないということが挙げられます。また、ほとんどの支店は調理設備やホールがないなどの理由により会場の提供が物理的にできないなど、協力できる内容が限定されることもあります。できることを相談しながら模索しながら取り組んでいるのが現状となっています。

これをもちまして、事例報告とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。